

Museum News

展示は最後の仕上げ

附属総合ミュージアム 館長 横川公子



展示作業を終えて、展示ケース越しにもう一度見直すと、資料のちょっとした歪みや陰影、角度、他の展示品との間隔などが気になる。感覚に頼らないで物指で測り、客観的に歪みを矯正する。そうして、歪みや陰影などの雑音が消え、展示品自身が生き生きと躍動しはじめ、直截に訴え始める。その瞬間を展示として留める。これこそが、展示の最後の仕上げである。

ミュージアムの展示が、展示資料の由来や多様な関係性の発掘、モノとして同定された結果等々を反映したものであることは、云うを待たない。その意味でも、展示は最後の仕上げである。調査を積み上げて言語化するにつれ、モノがモノに留まらないで語り始めるのだ。

たとえば、一枚のキモノからは次のようなことが見えてくる。

2013年伊吹和子氏より寄贈、母上が外出用として着用、昭和初期制作、京都市内の呉服屋で調達、紋縮緬の型友禅、流水に蜻蛉の描き絵風文様、手のよい刺繍が散りばめられている等々。紋縮緬は大正期から昭和初期に平織物に飽き足らなくなった消費者に受容されて流行った和装素材。蜻蛉や流水は伝統的な取材であるが、明治末～大正期に受容されたアールヌーボー風の黄昏時の風情がある。調査は際限なく広がっていく。しかし、これは理詰め段階である。

展示室で一枚のキモノを広げ、その表情や肌ざわりが再現されるかどうかは、資料を生かすか殺すかの最後の仕上げにかかっていると思う。

2023年度 春季展

「モノの棲み家、ヒトの棲み家 —中田静さんの「自宅」より」

開催期間：2023年5月31日（水）

～7月12日（水）

開館時間：平日 10:00～16:30

土曜 10:00～15:00

閉館日：日曜

（ただし6月25日・7月9日は10:00～15:00開館）



昭和から平成の時代にかけて、大阪・美章園に暮らした大正9年生まれの中田静さん。彼女の「自宅」には、膨大な生活財や日用品が遺されていました。主人亡きあとも存在し続ける衣類や食器、瓶詰・缶詰の食品類、それらをおさめる家具、造花やぬいぐるみなどの置物、仏壇にしまわれた戦死した兄との書簡—そうした集合体を目の当たりにするとき、「自宅」とはヒトの棲み家であるとともに、モノの棲み家でもあるということに思い至ります。

本展では、武庫川女子大学附属総合ミュージアムが2009年来進めてきた調査・研究の成果を活かしながら、「自宅」におけるヒトとモノの関係に着目した新たな視点で、中田家コレクションに迫りました。年齢を問わず多くのお客様にご来館いただき、モノと自宅との関係や当時の暮らしについてなど、ご自身の経験や環境と比べたりしながらお楽しみいただきました。



1階ロビー
2023年度夏季展示

「涼”を感じる」展

開催期間：2023年7月6日（木）
～8月31日（木）

「涼」をとるため、煽いで風を起こす道具である「扇」は、高温多湿の日本において、真夏に必須の携行品でもあります。「扇」とは、檜の細い薄板を紐で繋いだ檜扇や、竹製の骨に紙を貼り付けて絵を描いた紙扇など、日本で創始された扇子（倭扇）を思い起こされますが、本来は中国起源の団扇を指す言葉でもありました。



夏季企画展では「涼”を感じる」をテーマに、扇子4点、扇面文の名古屋帯と帯地反物、団扇散らし文の長着を展示しています。暑い夏に涼しさを感じ取っていただければ幸いです。

次回の秋季企画は、9月初旬スタートを予定しています。

ミュージアムってどんなところ？①

活動紹介

**武庫川女子大学にミュージアムがある…ということ、ご存知でしたか？
「附属総合ミュージアムってどこにあるんだろう？」
「どんな資料が集まっているんだろう？」…という、皆さんの素朴な疑問にお答えします！**

主な所蔵資料は、「近現代の生活文化資料」「美術工芸資料」「学院の歴史および教育・研究資料」に大別されます。特に、9,000点以上ある和装を中心とした衣生活資料は「武庫川女子大学近代衣生活資料」として登録有形民俗文化財に登録されています！なおIR館1階では、常時「武庫川女子大学近代衣生活資料」のなかから、テーマに沿ってピックアップした資料を紹介しています。



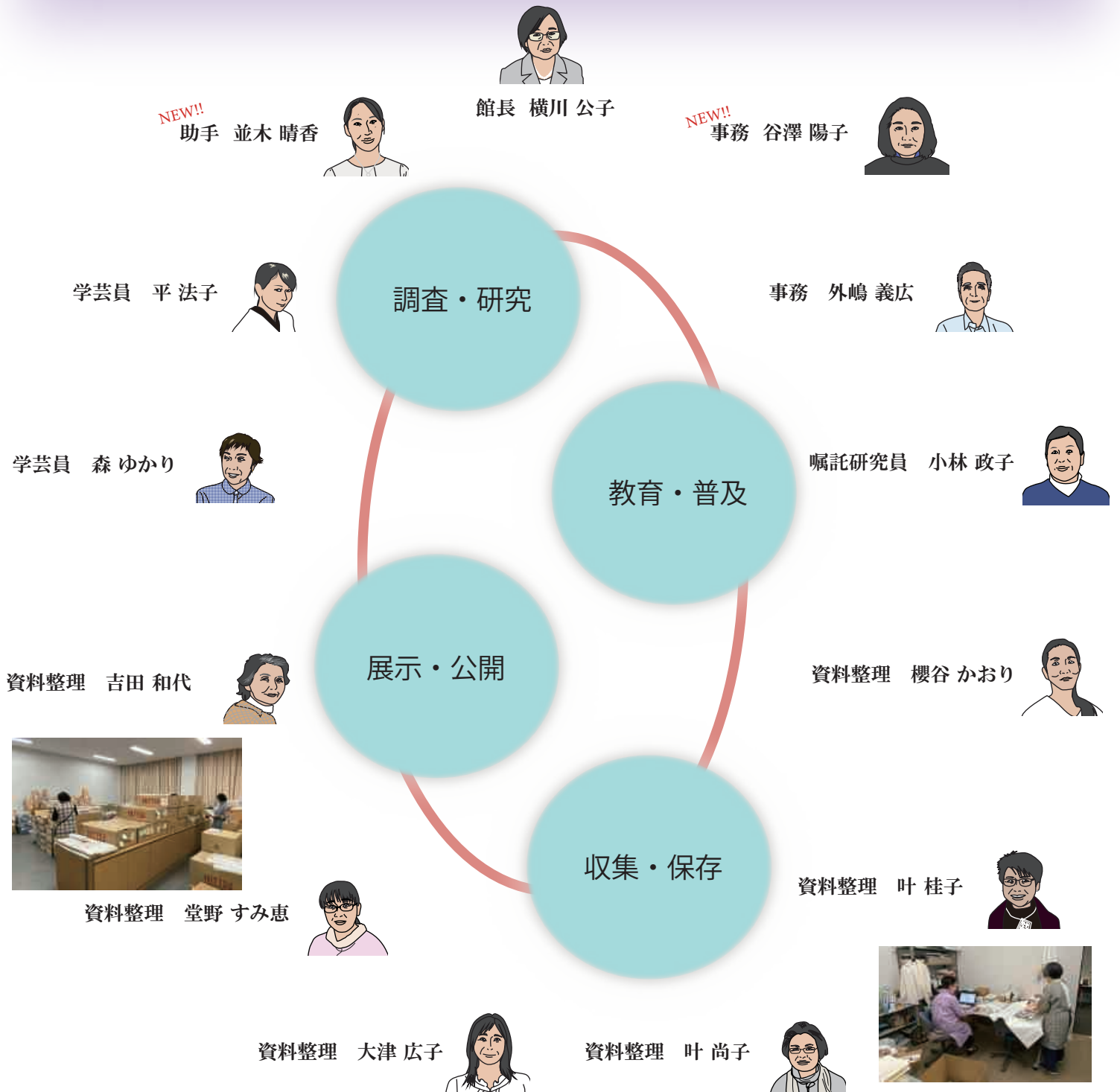
Google MAP

附属総合ミュージアムは、鳴尾・武庫川女子大前駅から中央キャンパスへ向かう途中にある「学術研究交流館」内にあります。講義の前後や帰り道など、駅と大学を行き来する間に立ち寄ることができます。年に2～3回開催している展覧会は無料です！お気軽にどうぞ！

ミュージアムってどんなところ？② スタッフ紹介



附属総合ミュージアムには、館長をはじめ学芸員・事務員・資料整理を中心におこなうスタッフなど、多岐にわたる業務に携わるスタッフがいます。なかなか外から見えない仕事が多いですが、それぞれがミュージアムにとって大切な仕事を担っており、「縁の下の力持ち」が勢ぞろいしています。この4月から新しいスタッフも加わりました。ミュージアムを支えるスタッフをご紹介します！



さらに、運営委員会の先生方、展覧会の受付や資料調査を手伝ってくださるスタッフや学生さん、学院の先生方、外部の先生方など、多くの方のご協力をいただき、ミュージアムの活動をおこなっています。

ミュージアムのお仕事 資料調査

ミュージアムの仕事のひとつに、「資料調査」があります。対象となる資料はたくさんありますが、今回は武庫川学院関連資料の調査の様子をご紹介します。

美術工芸資料



学院が所有する絵画や書などについて、状態の確認や台帳との照合作業などをおこなっています。調査後は丁寧に梱包し、より良い状態で保管できるようにします。

学院資料



開学当初から現在まで、武庫川学院に関する様々な資料を調査・整理しています。当時の様子を示す貴重な写真や記録がたくさんあります！

ミュージアムの発行物 ご存知ですか？

附属総合ミュージアムでは、展覧会のチラシだけでなく、図録や紀要、リーフレットなどを発行しています。展覧会のスケジュールやミュージアムの活動内容、過去の展覧会の内容など、ミュージアムのことを知っていただけるものになっています。ぜひ手に取ってみてください！

附属総合ミュージアム紀要



各自の研究テーマや調査の過程で明らかになったことなどを発表する【論考】や【研究ノート】からなる「紀要」と、ミュージアムの活動や展覧会の記録を綴った「年報」を掲載しています。1年間のミュージアムの様子がわかる1冊です。皆様からの論文投稿も受け付けております！

年間展示スケジュール



2023年度のミュージアムの展示スケジュールを掲載したポストカードです。IR館や食堂などに配架していますので、ぜひチェックしてみてください。

リーフレット



ミュージアムの成り立ちや所蔵資料の紹介などをおこなっているリーフレットです。ミュージアムのことを知っていただくきっかけになるのはもちろん、学外の方に「武庫川女子大学にはこんなミュージアムがあるよ!」という名刺代わりに活用してください！

